

花沢学園の長期成長ビジョン

長期成長ビジョン（目指す姿・ビジネスモデル）

- 地球規模で深刻化する社会課題（気候変動、格差拡大、人口流動など）に対応し、国際社会で課題解決型リーダーシップを発揮できる学生を育成する
- 異文化理解、多文化共生の力を育み、人種・宗教・国籍を問わず包摂できるグローバル市民を育成する
- AI・データサイエンスを活用した教育DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進し、個別最適化されたアクティブラーニング環境を構築する
- 不登校生徒や外国人生徒を積極的に受け入れ、リアルとバーチャルを融合したキャンパスで交流・共学を推進し、自己肯定感と多様性受容力を高める
- 世界標準の教育を目指し、国内外の教育機関・企業・自治体と連携しながら、次世代を担うグローバル人材の育成基盤を確立する

会社全体の売上成長目標（～30年）

- 売上高成長率110%
- 売上高増加額14億円

会社全体の賃上げ目標

- 年平均5.0%（直近事業年度～基準年度）
- 年平均5.6%（基準年度～事業化報告3年目）

外発的動機

- コロナ禍による生活・学習環境の変化で、不登校生徒が全国的に増加し、心理的不安や社会的孤立が深刻化
- 国の「不登校支援強化方針」策定により、学校には早期発見・支援体制整備の迅速な対応が求められている
- 外国人労働者の増加により、外国人生徒の来日が進み、日本語教育や生活支援のニーズが拡大している
- 外国人生徒の学力・言語・文化差への対応力が不足する教育機関が多く、社会的な課題となっている
- SDGsにおけるインクルーシブ教育推進により、多文化共生を実現する教育機関への期待が高まっている

内発的動機

- 教員がカウンセリングやメンタルヘルス、異文化理解に関する専門研修を受け、多様な生徒に対応できる体制を構築
- 教職員の資格取得を推進し、心のケアや個別支援の専門性を高める取り組みを実施
- 20年以上の通信制教育のノウハウを活かし、個別最適な学習支援体制を確立
- Webと対面を組み合わせたハイブリッド型学習モデルで、生徒の多様な学び方に柔軟対応
- AI技術を活用し、個別に最適化された進路指導や学習支援を提供する体制を整備

補助事業の背景・目的

補助事業の
背景・目的

・ 不登校生徒や外国人生徒が増加し、多様な生徒に対応できる教育機関の重要性が高まって
る。これらの生徒を受け入れ、個別の教育を行い、グローバルに活躍できる人材を育成する。

事業費
(補助額)

29億円
(6.8億円)

設備投資の
内容

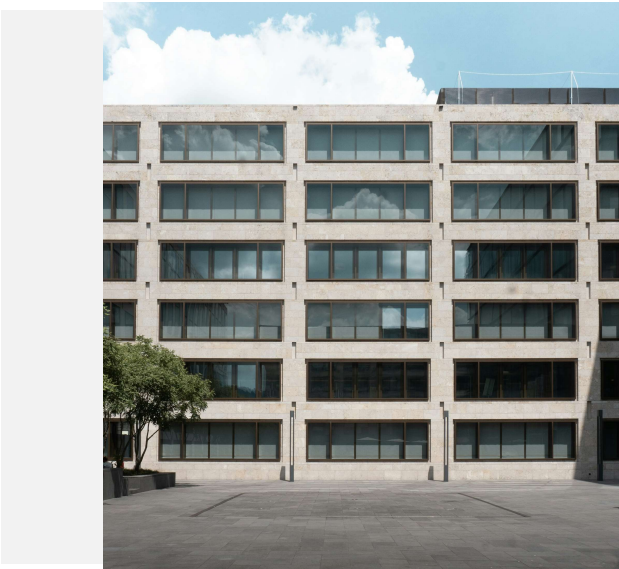
不登校生徒・外国人生徒のコミュニケーション障害、言語の壁、異文化対
応を可能とする、メタバース、AIを活用したリアル×バーチャルを繋げた教育
プラットフォームを構築する。

・6階建て校舎建設費：25億円（8.33億円）

・メタバースキャンパス：1.5億円（0.5億円）
リアルとバーチャルのキャンパスで生徒間のコミュニケーションを促進

・AIカウンセラー：1億円（0.33億円）
不登校生徒の悩み相談、外国人生徒の日本語学習、進路相談

・スクールコミュニティプラットフォーム：0.5億円（0.17億円）
生徒・教員・保護者間のコミュニケーションを促進



目標値

項目	2026年度 (基準年度)	2029年度 (基準年度 + 3 年後)
労働生産性 (単位：万円/人)	1,171	1,815 (年平均上昇率 + 15.7%)
従業員1人あたり給与支給総額 (単位：万円/人)	745	887 (年平均上昇率 + 6.0%)
役員 1 人あたり給与支給総額 (単位：万円/人)	1,087	1,259 (年平均上昇率 + 5.0%)
補助事業に係る従業員数 (単位：人)	58	94